フィリピンでのボランティア活動報告書

2005年7月31日～8月20日の三週間、私はNGO"ACTION"の主催するワークキャンプとしてフィリピンの孤児院に行ってきました。

<参加動機>

① 世界の子供達の現状を本やテレビではなく、直接自分の目で見てみたい、子供達と触れ合ってみたい。

② 国際開発に関わる仕事に就きたい！国際開発について学ぶことのできる大学に進学したい！と思っているのに、実際は日本での恵まれた生活を当たり前だと思い、勉強や毎日の生活に甘えている自分に活を入れたい。

③ なにより子供達の笑顔が見たい！！！

以上の3つの理由から、このワークキャンプへの参加を決めました。

<キャンプ中の生活、活動、感じた事>

ワークがある日のスケジュール

7:00	朝食	14:00	午後のワーク開始
8:00	午前のワーク開始	17:00	午後のワーク終了
11:00	午前のワーク終了	18:00	夕食
11:30	昼食	18:30	自由
12:00	自由	20:30	ミーティング

① ワーク・・・孤児院ジャイラホーム内の建物建設のお手伝い

私達が行った主なワーク・・・ジャイラホーム内の将来事務局、図書館として利用される予定の建物内の

1） 元々貼られていたタイルはがし

2） 新しいタイルを張りやすくする為の床の穴あけ

3） 元々あった窓の拡張

4） シャワールームとトイレとして使われていた部屋をなにもない部屋にする為の仕切り壊し　など

キャンプ中のほとんどはワークをしました。ワークの主な内容は上記の通りで、地元の大工さん4、5人と一緒に行いました。日本の大工さんが使うような電化製品は使わずに、全てハンマーやとんかち、シャベルなどを使って作業をしました。ワーク中は、気温も暑く地味で単調な作業で大変でしたが、子供達の為！と思えば頑張ることができました。

ワークをするキャンパーとは別に、掃除洗濯：2人（自分達が生活するゲストハウスの掃除とキャンパー全員分の洗濯）、キッチンのお手伝い：2人（朝食、昼食、夕食、そしてワークの合間のメリエンダと呼ばれるおやつを作ってくれているおばさんのお手伝い）、子供達が暮らすコテージのハウスマザーのお手伝い：各コテージに1人づつ合計3人（子供のご飯作りを手伝ったり、掃除を手伝ったり、各コテージの子供達と遊ぶ）の3つの当番を毎日交代で行いました。

② ジャイラホームの子供たちとの交流

ジャイラホームには現在約40人程の子供達が生活しています。子供達がジャイラホームへとやってきた理由はそれぞれさまざまですが、主に親からの虐待、育てたくても育てられない・・・家庭の経済的理由から、物乞いなどをして生活をしていた元ストリートチルドレン、この3つの理由が主な理由となっています。これはスタッフの人から聞いた話ですが、子供達の中で経済的な理由などの場合はたまに一時帰宅できるそうなのですが、一度家に帰るとなかなか帰りたがらないそうです。理由はただ1つ、家族と一緒に暮らしたいから。子供達は今ジャイラホームにいるから学校にも行けて、毎日ご飯を食べることができます。しかし家に帰れば学校にも行くことができない、毎日ご飯を食べられるかわからない・・・だけど家族が大好きだから、一緒に暮らしたいから、だから帰りたがらないそうです。そんな暗い背景を持っている子供達の笑顔が見たくて、昼食後の休み時間、夕食後の休み時間はもちろん、早起きして朝食前などとにかく空いている時間は子供達と遊んでいました。子供達の笑顔は彼らの家庭環境を忘れさせるほどキラキラしていて、言葉では言い表せないほど本当に素晴らしいものでした。

③　ホームステイ

ジャイラホームはフィリピンのなかでも特別な場所です。なのでフィリピンの一般家庭はどのような生活を送っているのかを体験する為にキャンパー2人1組で3泊4日ホームステイを行いました。

一般家庭ですので、やはり各家庭ごとに貧富の差があったり、生活様式はさまざまでした。私のホームステイ先は比較的裕福な家庭でしたが、他のキャンパーのホームステイ先は日本との差が大きすぎるものでした。その中で特徴的なのはお風呂とトイレです。シャワーがついていれば上流で蛇口でさえも、ついている家庭は上流です。もちろんお湯などは出ず、冷たい水しか出ません。ほとんどの家庭はお風呂場とトイレが同じところにあって、井戸から汲んだ水を大きなタルのようなものに溜めて、その水でお風呂もトイレも行います。その普通の違いにものすごく驚きました。

しかし家族の絆や優しさは本当に大きいもので、ホームステイ中いつも私のことを気遣ってくれて「大丈夫？」と声をかけてくれ、親戚の方とは本当に仲が良くホームステイ中は毎日違う親戚の方が遊びに来ていて、ニコニコ笑顔で握手を求めてくれて自己紹介をしてくれました。親戚の方が多すぎて、4日間では覚えることができませんでしたが、すごく嬉しかったです。3泊4日という短い期間でしたが、私達を本当の家族のように受け入れてくれて、最後の日は涙でいっぱいでした。

④　スタディーツアー

その名の通り勉強ツアーで私達が今回訪れたのは

1）戦争資料館

2）耳や目が不自由な子供達の施設

3）性的虐待を受けた子供の施設

以上の3ヵ所です。この中で私の中で最も印象的だったのが3）の性的虐待を受けた子供達の施設です。自分と同い年位の15、16歳位の子供が0、1歳のこどもを抱っこしている姿をみたり、フィリピンの性的虐待の現状についての話を聞いたり、この施設にいた子供達がみんな性的虐待を受けたと思うと、本当にショックで、決してあってはいけないと強く思いました。

⑤　週末はオロンガポという大きな街へ宿泊、街の人との交流

街へ行くと、たくさんの現地の人々と会いました。

例えば日本でも有名なマクドナルド。日本の時給は800円～1000円位ですが、フィリピンは約48円です。その位日本とフィリピンではお金の価値観のようなものが違います。フィリピンに行ってあれもこれも安～い！と言ってお金をバンバン使っていたり、キレイな洋服を着ていたり、財布の中にはたくさんのお金が入ってたり・・・そんな日本人はフィリピンの人から見たらイヤなものかなと思っていました。しかしフィリピンの人はいつもニコニコしていて、目が合うとみんな笑って手を振ってくれて、みんな本当に優しくて、心が温かい人ばかりでした。その優しさに感動しました。そしてストリートチルドレンと呼ばれる子供達にも出会いました。「1ペソ（約2円）でいいからちょうだい」「何か食べ物ちょうだい」・・・・本やテレビでは知っていたものの、やはり自分の目で見ると、本当にショックで、ストリートチルドレンという現状を受け入れことがとても辛かったです。

<帰国して考えたこと>

日本に帰国したフィリピンに行く前と同じ何の不自由もない生活を送っている今、フィリピンで出会ったストリートチルドレンや性的虐待を受けた子供達をはじめ、世界に苦しんでいる人がたくさんいるのに毎日自分だけこんなに贅沢な生活を送っていていいのかと思ってしまいます。今回フィリピンで目の当たりにした日本とは違いすぎるほど違う世界の当たり前の生活・・・それを自分の目で見たからこそ、世界の貧困や売春、ストリートチルドレンの問題など苦しんでいる人々について、フィリピンに行く前の何倍も深く考えるようになりました。そしてフィリピンに行く前は当たり前に流し放題だった蛇口から出る水を見て「この水があればどれだけの人の命が助かるんだろう」「この水を求めて毎日何キロも往復する子供がいるんだ」、行く前は行くのが当たり前だった学校、できるのが当たり前だった勉強も「私が授業中にさぼってしまっている、喋ってしまっているこの同じ時間に一生懸命働いている子供がいる」「どんなに学校に行きたいと願っても行くことができない子供がいる」・・・・考えればきりがなく、同時にこの不平等な世の中をどうにかすることができないのかそう思う毎日でした。生活していく上での考え方、物の見方が大きく変わりました。そしてこのようなことを考えているうちに、こういったら少し大げさですが自分なりの答えを見つけました。それは一番大切なのは『自分自身が一生懸命頑張ること』ということです。フィリピンで出会ったストリートチルドレン、性的虐待をうけた子供たち、親と一緒に暮らすことができない子供たちをはじめ世界の苦しんでいる人々・・・彼らは自分自身の置かれた状況をしっかり理解して毎日一生懸命頑張っています。そんな彼らを助けたい、彼らの力になりたいと思ったらまずは自分自身が日本という国で一生懸命頑張らないといけないと思います。まず自分が一生懸命頑張っている人でなければ、一生懸命頑張っているひとを助けること、力になることはできないんじゃないかなと思います。フィリピンに行く前の自分は、手の届かないことばかりをしようと思って、日本という国の贅沢に甘え、身の回りのことをサボったりなまけてばかりでした。今の私は世界の苦しんでいる人々を助けたいこの気持ちでいっぱいです。だからこそ、これからは手の届かないことばかりをしようとする前に自分の身の回りをよく見て小さなことでいいから当たり前のことでいいからサボったりなまけたりしないで一生懸命頑張ろうと思います。そして同時にこの『一生懸命頑張ること』が苦しい環境で一生懸命頑張って生きている人々に対する一番のボランティア、日本という先進国に生まれここで生活している私たちの責任じゃないかな、とワークキャンプを終えた私は思います。そして毎日3食十分なご飯を食べることができる幸せ、いつでも安全な水を手に入れることができる幸せ、毎日学校に行けて、勉強ができる幸せ、性的虐待から脅えることなく暮らすことができる幸せ、帰る家があって私のことを心配してくれて一緒に暮らすことができる家族がいる幸せ、そしてその家族と一緒に暮らすことができる幸せ、毎日笑っていられる幸せ・・・・この当たり前だけど当たり前でないたくさん

の幸せ、この幸せを支えてくれている人、物、社会に対する感謝の気持ちをいつも心に留めていたいと思います。